

「復興」とは

私は去年初めて北上町を訪れ、震災の被害の大きさを目の当たりにしました。そして今年も再び北上町でボランティアをさせていただき、前回よりもより多くの事を学びました。時間が経過して再び同じ場所を訪れたことで、北上町の変化が顕著に感じられ、そして、北上町の復興の様子が最も私の心に残りました。

2年目の北上町を訪れて最も印象に残ったのが、復興の進み具合でした。昨年と比較すると、道路や堤防など様々な場所が整備されており、工事のトラックも倍以上に増えていました。海沿いの道路には、津波を防ぐための巨大な堤防が作られ、その道路からは海が全く見えない光景に思わず絶句しました。北上町は山と海が隣接していることが特徴であり、自然に恵まれていることを地元の人々は誇りに思っているということを知っていたため、その象徴である眺望が無くなってしまうと聞きショックを受けました。また、そうした眺望が失われてしまうだけではなく、海に関わる漁業にも大きく影響するため、堤防を建てたことによる変化は非常に大きなものであることが分かりました。北上町を含む多くの被災地は、完全に元の状態に戻ることはない、ということを知らされました。

また、震災当時から北上町で審議されている高台移転に関してもお話を伺い、家を建てる場所、建ててはいけない場所が限られていること、そして、危険区域に当たる場所にある建物は早急に取り壊さなければいけないことを、政府によって定められていると知りました。そのことによって北上町の人々は、たとえ家が無事に残っていたとしても手放さなければいけないという現実を強いられていると聞き、やりきれない思いでした。震災と津波が残した爪痕は大きなものであり、たとえ小さな地域であっても、再び機能するように立て直すには膨大な時間や労力、資金がかかることを知りました。

こうした複雑な形であれ、北上町の復興は少しずつ進んでいます。しかし、震災が起こってから4年半が経過しているという事実を踏まえて見ると、北上町の復興は順調に進んでいる、とは言えません。まだ多くの方が仮設住宅に居住していることがそれを物語っています。震災当時には2年程で取り壊すと言われた仮設住宅に、4年半経った今でも住まなければいけない人が大勢いることを、現在どれだけの人が知っているのでしょうか。オリンピックに向けて様々な取り組みが行われている東京では、いまや震災はすっかり忘れられているのではないか、とも思えました。

震災が起こってからすでに4年半が経ちます。東日本大震災の被災地の状況は、現実には東京の新聞やテレビではもう報道されていません。私自身も、今年再び北上町を訪れるまでは、日常的に被災地を思い出すことはめったにありませんでした。しかし今回、北上町に行き多くの人と話して、震災がまだ続いていることを再認識しました。そして、復興というものがいかに曖昧で難しいものかを痛感しました。復興についての考え方は

様々です。被災した全ての地域が再び機能し、全ての人が自立した生活を送れるようになることが復興だという考え方もあり、またそれ以上に、完全に元通りにすることが復興だという考え方もあります。そうしたことを踏まえると、復興にゴールは無いのかもしれない。しかし確実に言えるのは、被災地復興はいつでも最優先にしなければいけない問題だということです。私は、被災地における時間の流れと他の地域における時間の流れに差があってはいけないと思っています。被災地だけが、被災者だけが取り残されているようであれば、まず第一に被災地への支援をすべきです。東京オリンピックに向けるエネルギーや資金を被災地復興に回してほしかった、と北上町の仮設住宅に住む方が悲しそうに話す姿が忘れられません。被災地復興は被災地だけの問題ではなく、日本全体の問題だという意識を、多くの人を持つことが復興への第一歩だと、私は考えます。